

新時代の救いと使命の自覚

黎の

発行所
京都市左京区吉田神
高岡町3
有限会社海東社
郵便番号506
電話(075)2022番

健康と宗教

明主様御真筆

前号(黎29)までに、私共が明主様の御教を拝読させていただき、今までの既成観念に影響されないうちに、常に白紙となり何回もくりかえして、自分の魂に御教を、神様の御救いの御言葉としていただくことの大切さを申し上げました。

このことをしっかりと守らせていただくと共に、明主様の御救いの御業のお手伝いをお許しいただくことによって始めて、御教の真髓の一端にそれ身現相応にふれさせていただけることも己に申し上げたわけでありました。

以上のことを私共が常に忘れず実行させていたことを前提として、今一度先月号(黎28)でお取次ぎさせていただきました御教を拝読させていただきたいと存じます。

『我が救世教は純然たる宗教ではないのである。』と言つても、一部には宗教も含まれてはいるが、全部でない事は勿論である。では、何故救世教の名を附けたかという、何しろ有史以来夢想だもしたなかつた処の面期的救いの業である以上、止むを得ずそう附けたまでであつて、特殊の名前を附けるよりも、この方が分り易く親しみ易いからで、これを卒直に言つて宗教以上の業と思えばいいのである。』(天福書序文)

明主様がこの御教で本教のことを、『宗教以上の宗教』『超宗教』『空前の救いの業』という言葉で御表現下さつて居りますが、この中にこめて下さつた意味を、今より深く掘り下げていただくために、今回は更に別の御教をいくつか抜粋して拝読させていただきたいと思ひます。

『私はメシヤ教を創立し、爾來汝々として宗教活動に邁進したつてゐるのは、言うまでもなく人類救済の大目的達成の爲であるが、それだけならば在来の宗教も喝えただけで、今更事新しく言ふ必要はないが、本當をいへば一般人の頭脳に込み込んである既成宗教観を抜いて了わなければ、本教の実体は到底掴み得ないのである。

というのは現在迄の宗教も科学も、凡ゆる文化の水準を遙かに超越している処の超宗教であるからで、適切な名称さえ見付け難いのである。強いて言へば、先ず宗教を主眼として創造される処の、宗教文明の発案者といつてもよさる。』(黎10)

明主様の御教について

本教について(八) 会長 多田 光行

(その22)

の点が変わつてゐるかをかいてみるが、それは本教は宗教以外、基本的文化に関する凡ゆる諸点を発見し、眞の文化のあり方を知らせんとするのであつて、それと共に其方法をも明示するのであるから謂わば大規模な文化革命である。』(地33)

『本教の名は、救世教となつてゐるが、勿論最後の世の救の爲に現はれたのであるから名実共に間違つてゐないが、一名創造教と言つてもいい。』(黎69)

教の企画であるが、それは現在の唯物科学と唯心科学を並行させ、文化の進歩発展を促す事である。御承知の如く今迄は科学文化が非常な速度で走りつゝあり、現在も走り続けているに對し、唯心文化である宗教の方は、兎に對する處である。数千数百年以前文化がまだ幼稚な時代に生れた儘で、殆んど進歩はなかつた爲、遂に千里の差を生じて了つたのである。

其結果として、今日科学のみがクロウズアップされ、靈的の方は眼に入らない迄に遠くなつて了つたので、遂に體を無視し、科学のみを文化の全体と思ひ込みに、人間は科学の王者の前に跪き、奴隷に甘んじてゐるので、之が現在の世界の姿である。何よりも貴重な人間の生命でさえ安心して、科学の掌中に委ねてゐる。

ではないか。她在が事実科学では生命の安全は保証出来ないに拘わらず、それに気が付かず、相違らず盲目的に信賴しているのが現代人の考え方である。そこで神は其迷宮を哀れみ給ひ、私をして現在を教へてゐるのである。即ち生命は物質には属しない事、生命は眼に見えないだけで、厳然たる存在であつて、神の支配下にあるものである事を事実を以て示されてゐるのである。事実とは唯物理学で駄目と断定された者が、ドシドシ神力によつて治されてゐる。之が何より其証である。

之に就て考えなければならぬ事は、それが何故今日迄生命に関する程の重大問題が、不明の儘であつたかという疑問であるが、之も無理はない。そこで此事を想像してみると、科学文化を或程度

まで進歩させる必要上そうされたのである。之も神の経緯で、過渡期に於ける一時的現象である。それに對して神は其行き過ぎを訂正すると共に、唯心科学の分野と唯心科学の分野とをハッキリさせ給うので、之によつて唯物唯心の科学は、歩調を揃へて進歩し発展し、茲に眞の文明世界が生れるのである。一言にしていへば現在の旧世界は、茲に終りを告げ、新しき世界が造られるのであるから、私の仕事は其産婆役といつてもいい訳である。』(黎67)

『これは私がいつもいう事だが、我救世教は宗教ではなく、宗教以上のものである。宗教とは読んで字の如く、宗祖の教であるから、例外なく御説教が主になつてゐる。つまり口で説き筆で教えるので、経文でもバイブルでもそれであるから、今までは兎も角右の方法で人を清度したものであるから、本當をいふと宗教は教え諭す以外は何かないのであつたが、それでよかつたのである。』(黎67)

その第一は病氣治しであるが、今日までこれ程の治病力を發揮した宗教はなかつたし、(中略)農事改良なども例はない。そして文学、芸術、政治、経済、哲学、科学等何れも彼も人間に必要なものは包含され、根本的に教え諭して実行してゐる。このような訳で御説教は本教の一部であつて、而もその説く処前人未見のものが多いので、この点特に注目されたいのである。というように本教の経緯を一口に言へば高度の文化事業である。』(黎67)

明主様は、私共が何とかして本教の真髓の一端に少しでもふれられるようにとの御心から、色々な言葉・表現を用いて御説き下さつてゐるわけであつた。次回には以上の御教を表面の事として申訳ありませんが、今少し皆様に共に勉強させていただきたいと存じます。

